

平成30年度 檜枝岐小中学校 学力向上グランドデザイン

☆小・中一貫教育の推進
小中9年間を見通した教育活動による人格形成
「15歳の春を見据えて」

☆目指す児童・生徒像(9年間で重点的に育む資質・能力)
自己マネジメント力を育成する小中一貫教育の推進
○探求する児童生徒(探求心を高め、思考力・判断力・表現力の育成)
○まっすぐな児童生徒(望ましい人間関係を築く力の育成)
○きたえる児童生徒(健康と安全の意識を高め、自己管理能力の育成)

国・県・地域・村の教育施策
・学習指導要領
・第6次福島県総合教育計画
・頑張る学校応援プラン
・南会津夢教育2018
・H30檜枝岐きらめきプラン

☆学級経営・道徳・特別活動・生徒指導の基本
「郷土を愛し、夢に向かって学び続ける子ども」

☆達成指標 アンダー・アチーバー「ゼロ」に努める。
NRT偏差値で、各教科前年と比べ+1をめざす。

☆保護者・地域の願い
郷土を愛し、自信と誇りをもったたくましい子どもに育てほしい

☆確かな学力向上のための授業実践

◎実態把握

- 知能検査(4月)
- NRT(2月)
- 全国学力・学習状況調査(小6、中3:4月)
- 福島県学力調査(小5、中2:11月)
- ◆中学校
 - ・多くの教科において正答率が目標値、県平均を上回っている。
 - ・国語科では「読むこと」、数学科では「数と式」「関数」、社会科では「近代の日本」の領域に課題がある。
 - ・数学科では、問題を解く速さにも課題がある。
- ◆小学校
 - ・各学年ともに、偏差値が全国比と同等程度か少し上回っている。
 - ・国語では「書くこと」「話すこと聞くこと」、算数では「数と計算」「数量関係」に課題がある。
 - ・算数の活用問題を苦手として

◎3つの約束

- 中学校卒業までの育ちを小中9年間を見通した教育活動の中で支援する。
- 目標をもって、日々の授業や家庭学習、各種テスト等に取り組み、夢を実現していく力を育む。
- 中1ギャップの解消やより専門的な立場からの指導による学力向上等を図るために、中学校教員による小学校での教科担任制や小中教員のT・Tによる指導を行う。

◎4つの実践

- 授業での手立て
 - ・小学校教科担任制、小中教員のT・Tによる指導を工夫する(小・中)
 - ・教育ICTによる授業の工夫や学び合いの場の設定、新聞を活用した継続的な言語活動の実践により、授業の質的改善を図る(小・中)
 - ・主体的・対話的で深い学びの実践・考え、議論し合う授業づくりに取り組む(小・中)
 - ・自分の考えを様々な方法で他者に伝える活動を積極的に取り入れる(小・中)
 - ・個に応じた具体的な支援と「檜枝岐スタンダード」による学習の基盤作りを行う(小・中)
 - ・「授業スタンダード」をもとにして、日々の授業改善を図る(小・中)
- 授業以外での手立て
 - ・発達段階に応じた新聞記事の内容を要約し、自分の考えを根拠をもって表現できる活動の場を設定する(小・中)
 - ・朝の読書活動により、豊かな心を育み、落ち着いた気持ちで学習に取り組めるようにする(小・中)
 - ・「きらりの木」(児童生徒のよい行いの振り返り活動)の取り組みにより、望ましい人間性を育む(小・中)
 - ・日記指導において、文章構成を考えさせたり、テーマを決めて書かせたりするなど、学年の実態に応じた作文指導を行う(小)
- 家庭との連携
 - ・授業と家庭学習を連携させた自主学習の継続実践と内容の向上を図る(小・中)
 - ・読書により多くの作品に触れ、作者の考えと自分の考えを対比させ表現する場の設定(中)
 - ・基礎学力の定着のため、「チャレンジ教材」の継続的活用を図る(小)
 - ・「家庭学習スタンダード」をもとに、保護者と子どもが家庭学習の取り組みについて振り返る場を設定する(小・中)
 - ・「家庭学習の手引き」「生活ファイル(小)・ノート(中)」の活用と改善を図り、児童生徒によるPDCAサイクルの構築を図る(小・中)
- その他
 - ・定着確認シートやフォローアップシートは、単元終了後に関連する問題を取り上げたり、繰り返し解かせたりするなど、効果的に活用する(小・中)
 - ・朝学習・授業・家庭学習が一連のサイクルとなるように、児童生徒一人一人に合わせた課題を持たせて学習に取り組ませる(小・中)
 - ・生徒の実態を把握し、放課後の勉強会を実施し、指導については全教職員で組織的に取り組む(中)
 - ・朝学習の時間の内容を曜日で決め、基礎・基本の定着を図る時間を設ける(小)

◎点検・評価

- ◆中学校の内容
 - 定期テスト(4回)
 - 定着確認シート(6回)
 - 学習コンテスト(英・数)(8月・1月)
 - 1・2年実力テスト(3月)
 - 3年実力テスト(6回)
 - 漢字検定、英語検定、数学検定の実施
- ◆小学校の内容
 - 形式的評価の実施
 - 単元末テスト
 - 定着確認シート
 - ミニ漢字検定・ミニ計算検定(5・9・1月)
 - 漢字検定、計算検定、チャレンジ検定の活用(毎学期末)
 - NRT(2月)

◎修正・改善

- 確かな学力向上のための改善…(単元構想、授業展開、指導計画など、評価に基づく改善)
- 定着確認シートやフォローアップシート、算数・数学ジュニアオリンピック問題などの発展的な活用(小・中)

◎本校の教育課題
◎ICTを効果的に活用した授業の実施
◎小・中学校の連携した取組
◎発展的な指導と補足的な指導など、個に応じた指導と評価

◎子供の実態
○素直な性格であり、地道に取り組む姿勢が身に付いている。
○地域の諸行事の運営にも積極的にに関わり、楽しく活動するなど、地域に根ざした生活を大切にしている。
○諸行事や学校給食をとおして、小学校・中学校が時間を共有する場面が多いことから縦の結び付きが強い。

